

ケイツーシロップの 予防投与について

ケイツーシロップにはビタミンK2が含まれています。

これは赤ちゃんに起こりやすい出血※を防ぐためのお薬です。服用方法は3回（出生後、生後1週間、生後1か月）服用し、ビタミンK欠乏を防ぎますが、中には3回でもビタミンK欠乏による出血が見られる赤ちゃんもいるので、生後3か月まで毎週1回ケイツーシロップを服用する方法も勧められています。当院では、この3か月服用の方法を採用しています。

※出血について

新生児ビタミンK欠乏性出血症

生まれてから7日までに起こります。特に生後2～4日が起こりやすく、消化管での出血が多いため、血を吐いたり、便に血がまざったりします。

乳児ビタミンK欠乏性出血症

生まれてから3週～3か月の間に起こります。頭の中での出血が多いため、不機嫌、嘔吐、けいれんなどの症状がみられます。

どうしてビタミンKが必要な？

ビタミンKは血液が固まるのに必要な「凝固因子」の原料です。これが欠乏すると出血を止められません。大人では食事から摂取したり、腸内細菌が作ってくれています。お腹の中の赤ちゃんは胎盤を通して受け取っていますが、その量は十分ではありません。また生まれてからも、母乳のビタミンK含有量は少ないことや、赤ちゃんの腸内にはまだ腸内細菌が住み着いていないことなどから、ビタミンKが不足するため、お薬としてビタミンKを摂る必要があります。

うんち（便色）カードってそんなに大事？



ビタミンKは胆汁とよばれる消化液に溶けて吸収されます。この胆汁がうまく出ないと、

しっかりとケイツーシロップを服用していても、出血を防げない場合があります。

胆汁が出ているかどうかは、うんちの色でわかります。「うんちカード」で色を確かめましょう！

JCHO北海道病院 産婦人科・小児科・薬剤部
(代表) 011-831-5151

ケイツーシロップの飲ませ方

母乳・ミルクを飲む前、**空腹時**に服用します（お腹いっぱいだと、お口が開きません！）

スプーンを使って

スプーンからこぼれることもあるので、少量入れて、少しずつ流し込んでください。

スティックから直接は口を切る可能性があるの×



哺乳瓶の乳首だけを使って

哺乳瓶の乳首をくわえさせて、シロップを少しずつ流し込んでください。



哺乳瓶を使って

飲み切れる少量（10mL以下）の母乳、ミルク、湯冷ましに混ぜて飲ませてください。

混ぜても良いもの
・湯冷まし
・母乳
・ミルク



10mL以下で赤ちゃんが飲みきれぬ量に調整してください。

入院中は出生後と退院前の2回服用します。

1回に**1包** 退院後から**週1回**服用します。

服用は毎週

曜日です

ケイツーシロップQ&A

Q1 飲んだ後に、吐き出してしまいました！（または、飲ませる前にこぼしてしまいました！）どうすればいいですか？
この場合は、1包飲めなくても、その時飲めた分でOKです。再投与の必要はありません。

Q2 予定の曜日に服用するのを忘れました！どうすればいいですか？
思い出した時点で、その週の分を服用してください。次の週からは決められた曜日に服用してください。

Q3 先週、内服していないことに気がきました！どうすればいいですか？
まるまる1週分忘れた場合は決して1回に2包服用はせず、1回1包服用してください。忘れた分、1包余ってしましますが、その分も飲み切って終了としてください。（予定終了日より1週長くなりますが、問題はありません）

Q4 間違っ毎日常飲ませてしまいました！どうすればいいですか？
心配なくても大丈夫です。気が付いた時点で、週1回内服としてください。予定日より早くケイツーシロップがなくなります。13回分の必要量は飲んだこととなりますので、飲み切って終了としてください。